

広尾町

横山 まり

1. 概要と歴史

1.1 地名の由来

町名は、アイヌ語の「ピルイ」が語源といわれ、「ピ」は石が転がる、「ルイ」は砥石（といし）がとれる地という意で、この言葉が変化し、1869年の国郡制定で広尾郡茂寄村が誕生するまでの間「ピロー」、「ビロウ」などと呼ばれていた。また、1927年10月に広尾郡広尾村に改称され、1946年9月20日に町制施行により、現在の広尾郡広尾町となった。

1.2 概要

広尾町は、北海道十勝管内の最南端に位置し、東は北海道有数の漁業資源を有する太平洋、西は日高山脈の山並みがそびえ立ち、その山系に源を持つ4本の河川が海に注ぎ、豊かな自然を生かした漁業を中心に農林業を基幹産業として発展してきた。また、首都圏を結ぶ海の最短距離に位置する重要港湾「十勝港」は、十勝の海上輸送の拠点港として今後の発展が期待されている。1984年ノルウェーのオスロ市から国外初のサンタランドの認定を受けて以来、「愛と平和、感謝と奉仕」を基本理念としてサンタランドにふさわしい町づくりに取り組んでいる。

画像1 広尾町の町並み



出典：広尾町公式 HP

図 1 町章



出典：広尾町公式 HP

1.3 町章

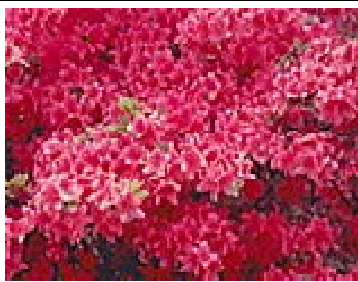
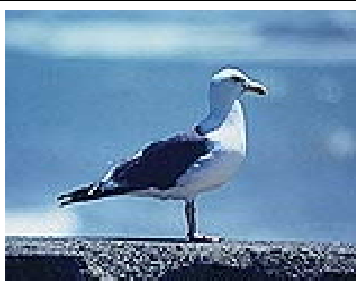
右の図 1 にあるように、町章中心部の正三角形は、魚のうろこを意味し、さらに、広尾の海にある立岩・二見岩・防波堤の図形で「広」の字を表し、外側は、産業の柱である農業・漁業・商業を三方の波が伸びつつみ広尾町の発展と町民の和を表している。

表 1 広尾町の町民憲章

町民憲章	
わたしたちは、日高の山なみを背に、朝日かがやく太平洋にのぞみ、港とともにひらけゆく、広尾の町民です。	
1.	元気で働き、豊かな町をつくりましょう。
1.	きまりを守り、互いに助けあって明るい町をつくりましょう。
1.	自然を愛し、きれいな町をつくりましょう。
1.	としよりを敬い、子どもを愛し、しあわせな町をつくりましょう。
1.	開拓の精神をうけつぎ、未来に夢をもつ、文化の町をつくりましょう。
—1966 年 10 月 26 日制定—	

出典：広尾町公式 HP より筆者作成

表 2 広尾町の木・花・鳥

オンコの木	広尾つつじ	かもめ
		
木全体の力強さは町の歩みであり、常緑の葉は町が発展していくようすを表している。	真紅の花は愛情を表現し、町の将来を担う若者の情熱を表している。	重要港湾を飛びかう姿は十勝港の躍進を表している。

出典：広尾町公式 HP より筆者作成

1.4 サンタランドとしての広尾町

広尾町はサンタの故郷ノルウェーが認めた国外初、日本で唯一のサンタランドである。サンタクロースのふるさとであるノルウェーのフログン市と友好交流提携を結び広尾サンタランドは、さらに全国の人たちに夢と希望を届けている。

広尾町は、1980年9月にノルウェー第2の都市ベルゲン市にある国立水族館とシーサイドパーク広尾・海洋水族科学館が姉妹提携をしたことが縁で、ノルウェーとの交流が始まった。ノルウェーの首都オスロ市が、ノルウェー・サンタランドとして世界中の子供たちから届くサンタクロースあての手紙に対し、返事のクリスマスカードを送っていることに注目した広尾町は、これを日本の子供たちにもぜひ伝えたいとオスロ市に相談し、当時の市長であるアルバート・ノーデングゲン氏から広尾町を国外初、日本で唯一の「サンタランド」とする旨の認定書が1984年11月に贈られた。平和のシンボルであるツリーを全国各地に贈り、平和の灯をともしりレー点灯式をはじめサンタメール事業にも着手し、1987年からは郵政省の後援を得て広尾サンタランド独自のカードによる事業展開を行い、この19年間で183万通あまりの実績を残している。また、両国の交流も活発化して絵画や工芸品の交換や訪問団の相互派遣などが行われてきた。ノルウェー・サンタランドの事務局がオスロ市から近郊のフログン市に移管された1989年からは、広尾町とフログン市との交流が始まり、1991年から5ヵ年にわたり、本町の各産業団体、一般の青年ら約50人がフログン市を視察訪問するなど交流機運が高まったため、新たな友好関係を築き、サンタランドの基本理念による世界平和の実現について協議を続けてきた結果、ビョルン・ローグ市長とヨーレン・ブールム副市長を本町に招き、友好交流提携調印式を行うこととなった。

図2 サンタランドのモチーフ



出典：広尾町公式 HP

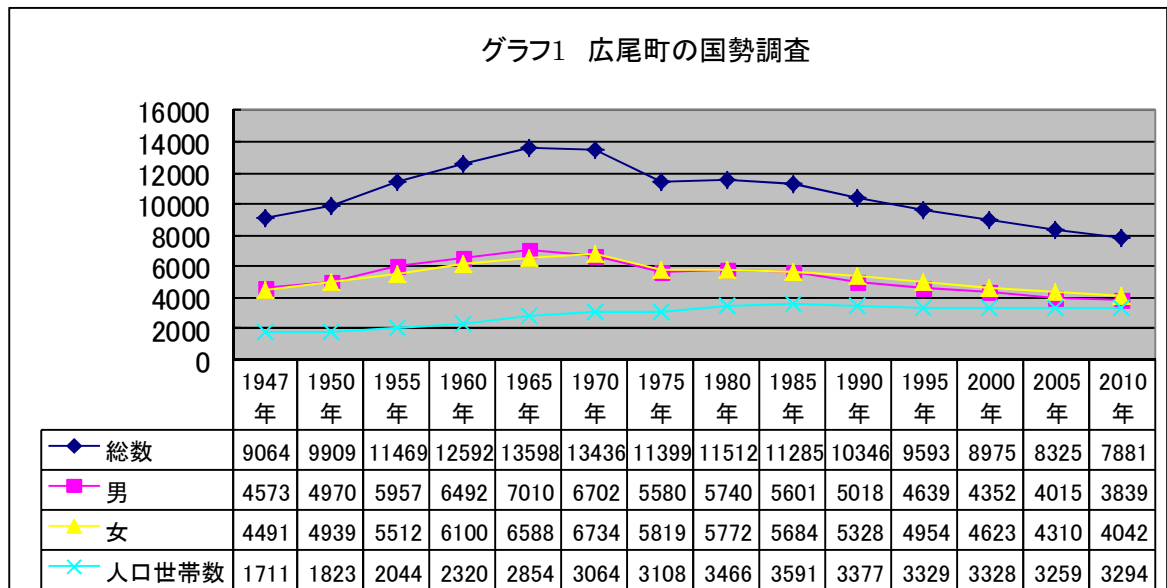
画像2 サンタランドの紹介



出典：広尾町公式 HP

1.5 人口の推移

グラフから人口の総数が1965年をピークに徐々に減っていることが読み取れる。ただし、人口世帯数は少しずつではあるが上昇傾向にあることがわかる。また、1947年から2010年の人口世帯数を比較すると、約2倍になっている。2010年になって初めて男性の人数が4000人を切るようになった。



出典：総務省統計局「国勢調査」1947年～2010年分より筆者作成

2. 広尾町の地理と気候

2.1 広尾町の位置と面積

北海道中央部を南北に縦走する大分水嶺の南半にあたる日高山脈の南端東側、十勝支庁管内の最南端の地域を占め、中心市街は北緯 42 度 15 分東経 143 度 18 分に位置している。全体の面積は 596.16km²、畑は 60.736 km²、宅地は 4.00 km²、山林は 105.923 km²、牧場は 9.179 km²、原野は 28.066 km²、雑種地は 3.704 km²、その他は 384.552 km² となっている。

2.2 広尾町の気候

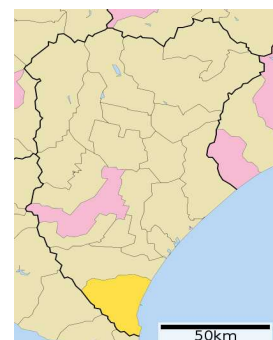
広尾町は昼夜の寒暖差も比較的少ないなど、海洋性気候の影響を受けて温暖な気候である。下のグラフ 2 より、平均して夏場は 20℃を上回ることがほとんどないことがわかる。このことから、広尾町の夏は平均して涼しく、過ごしやすいたことが窺える。また、これは海流の影響によって発生する霧によるものと考えられている。

図 3 広尾町の位置

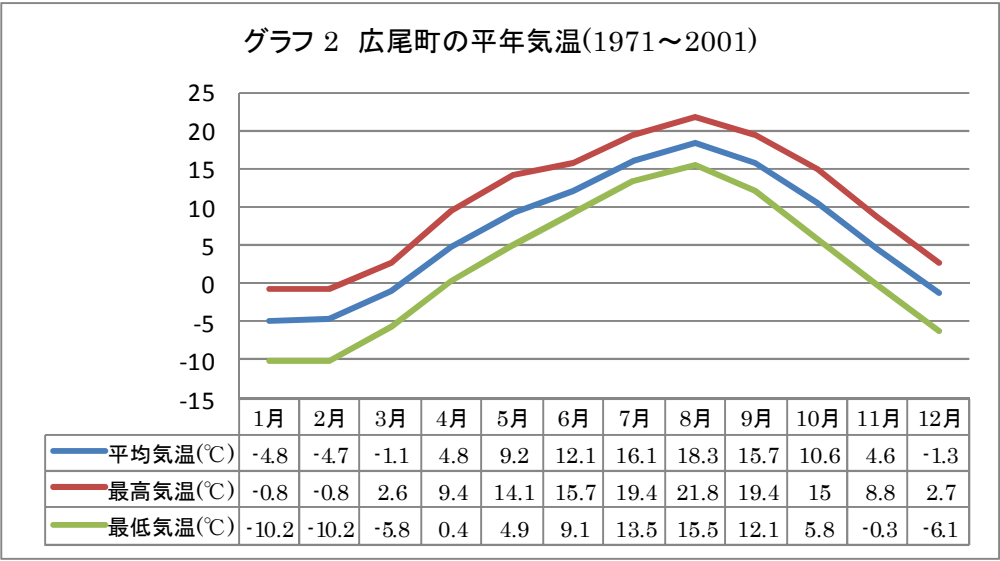


出典：広尾町公式 HP

図 4 広尾町の位置

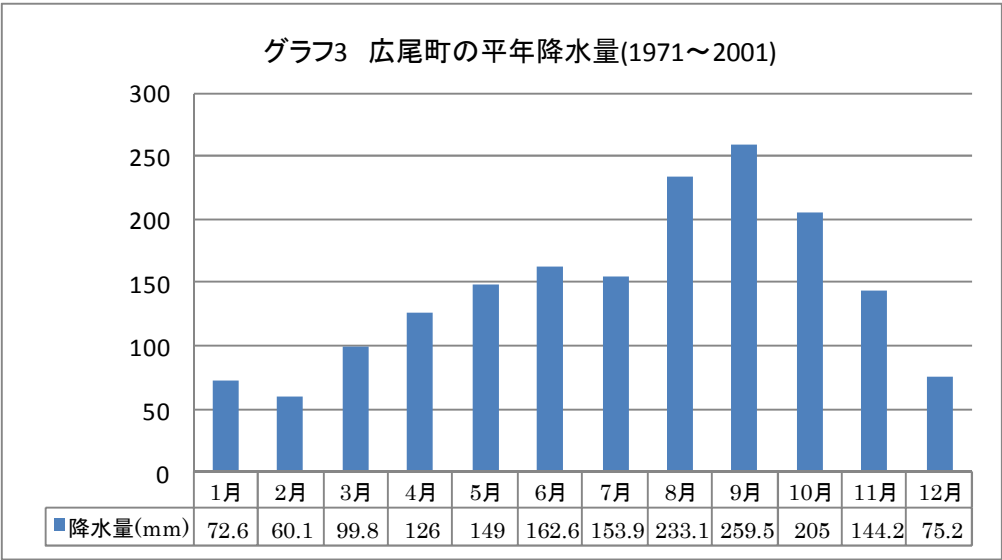


出典：ウィキペディア



出典：広尾町公式 HP より筆者作成

グラフ 3 からは、8 月から 10 月までの期間の降水量が他の月よりも比較的多めであることがわかる。ピークは 9 月の **259.5mm** である。冬場から春にかけての降水量は、意外にも低いことがわかる結果となった。

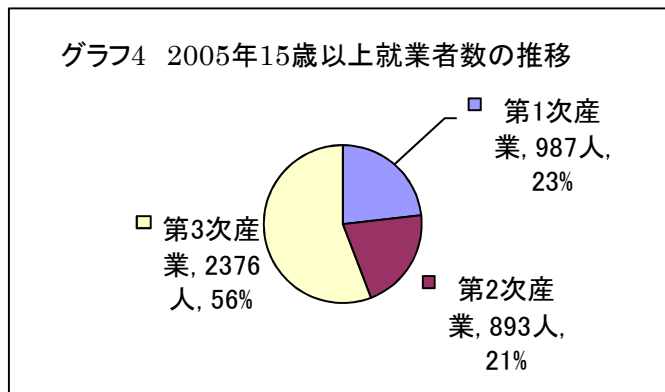


出典：広尾町公式 HP より筆者作成

3. 広尾町の産業

3.1 産業別人口

グラフ 4 より、2005 年の職業就業者数の推移を見ると第 3 次産業の割合が 1 番高く、過半数を占めていることが読み取れる。次いで第 1 次産業、第 2 次産業となっている。また、第 1 次産業と第 2 次産業の就業者数の割合は全体の 2% 程度しか変わらないことがわかる。



出典：国勢調査より筆者作成

3.2 漁業

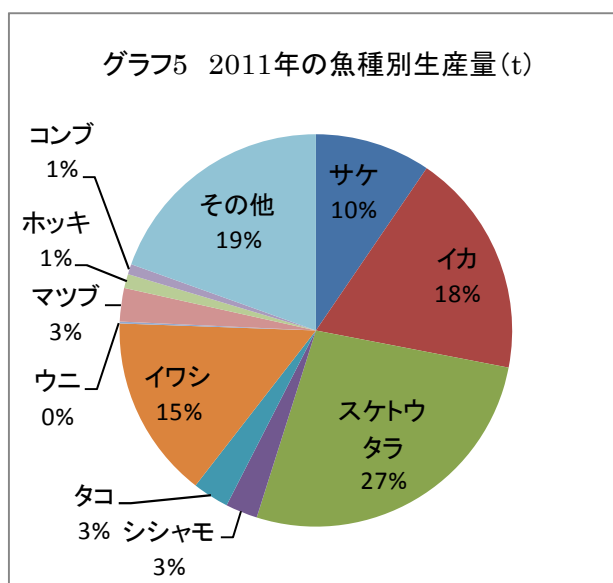
広尾町の漁業は、重要港湾十勝港と音調津漁港を拠点として古くから栄えてきた。親潮と黒潮が混じり合う恵まれた条件のもと秋サケ、シシャモ、コンブなど北海道を代表する海の幸が水揚げされている。戦後のオイルショック、200 海里体制での減船などによる機船漁業の経営圧迫、さらには漁業資源の衰退はもとより、魚価の低迷といった漁獲高の急減などの問題を打開するため、早くから「採る漁業」から「つくり育てる漁業」への転換を図ってきている。1980 年には本町の主要漁業であるサケマス漁の資源安定のため、管内では草分けの施設として民営のサケマスふ化場が建設され、漁獲量の安定供給に寄与している。また、沿岸資源増大と漁家所得向上を目指し、大型魚礁、タコ礁設置事業、雑海藻駆除やコンブ漁場造成事業などを行っている。1989 年には資源が著しく低下していたウニ資源増大と沿岸漁業者の安定所得を図るため、ウニ種苗生産施設を建設し、最近ではコンブに次ぐ沿岸の有望漁業として注目を集めている。1991 年には魚類飼育試験施設を建設し、マツカワ（カレイ類）の中間育成放流事業に取り組んでいる。

画像 3 コンブ漁の様子



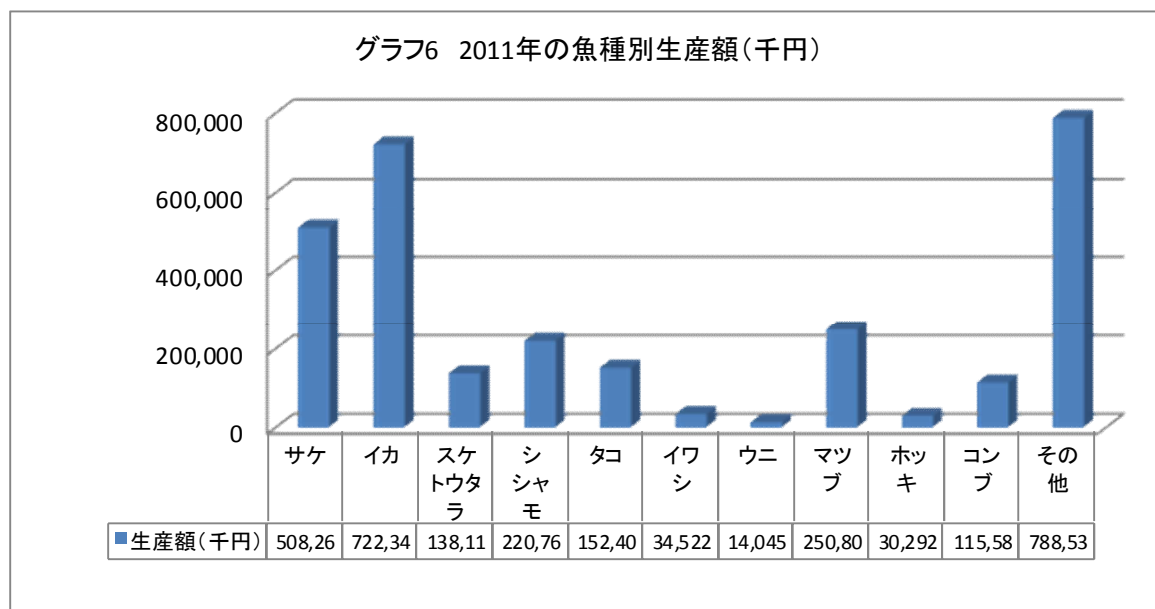
出典：広尾町公式 HP

右のグラフ 5 ではサケが 1,053t、イカが 2,045t、スケトウタラが 2,962t、シシヤモが 292t、タコが 331t、イワシが 1,664t、ウニが 16t、マツブが 305t、ホッキが 127t、コンブが 94t、その他が 2,156t 生産したことを表したものである。ちなみに、全ての合計生産量は 11,045t である。また、右のグラフ 5 から、スケトウタラが 1 番生産量が多いことがわかる。次いでイカ、イワシ、サケという順になっている。それ以外は全体的に見て少な目となっている。また、下のグラフ 6 ではグラフ



出典：広尾町公式 HP より筆者作成

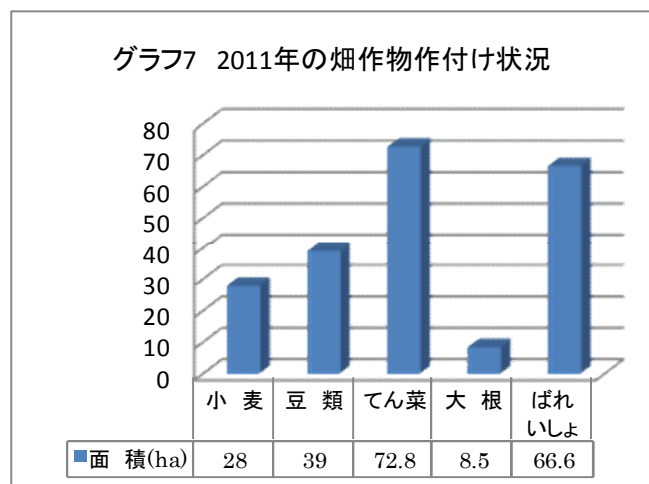
5 で表した魚種を生産額別に表したものである。円グラフでは 1 番多かったスケトウタラであるが、生産額となると下から数えた方が早いという結果になっている。これは、スケトウタラの単価が他と比較して非常に低いことを表している。反対にグラフ 6 で 1 番高い数値を表しているのは、イカであることが読み取れる。また、マツブはグラフ 5 では 3%と、低い値であったが、グラフ 6 では上から 3 番目に生産額が高いこともわかる。



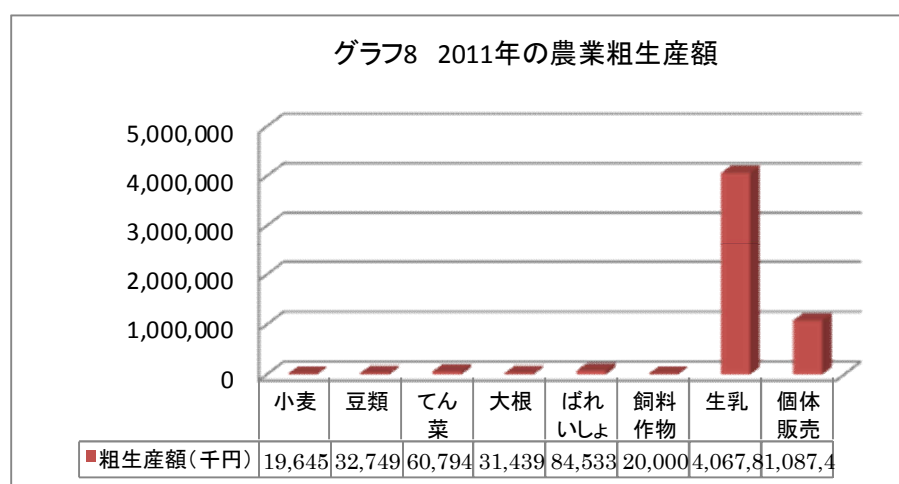
出典：広尾町公式 HP より筆者作成

3.3 農業

広尾町の農業は、酪農を中心に肉牛生産、小麦、てん菜、ばれいしょ、豆類などの畑作も行われている。酪農では主に、バターやチーズを大量に生産している。右のグラフ7からは、てん菜とばれいしょが特に多いことがわかる。また、ばれいしょは冷涼な気候でないと育たないことから、広尾町が畑作などに適していることが窺える。グラフ8では、生乳が圧倒的に多いことがわかる。また、十勝管内の中でも歴史の古い広尾町は、昔から酪農を続けてきたこともあり、他の農業から比べると、格段に多いのだと推測することができる。これから先も、広尾町での生乳の生産量は増えていくことが予想される。



出典：広尾町公式 HP より筆者作成



出典：広尾町公式 HP より筆者作成

画像4 町営牧場の様子



出典：広尾町公式 HP

3.4 商業

長引く景気の低迷と雇用情勢の厳しさから、消費力そのものの弱体化が本町の商工業に大きく影響している。こうした状況下で商工会をはじめとした関係機関と連携し、地域型スタンプ事業やインターネットによる特産品販売などに重点をおき、需要拡大と付加価値を高めた販路拡大に力を注いでいく。

画像 5 商店街の様子

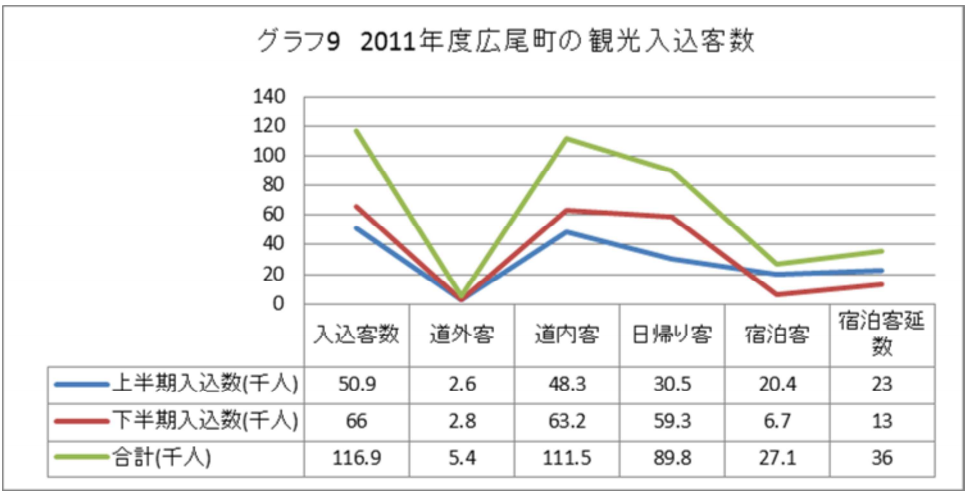


出典：広尾町公式 HP

4. 観光地や景勝地

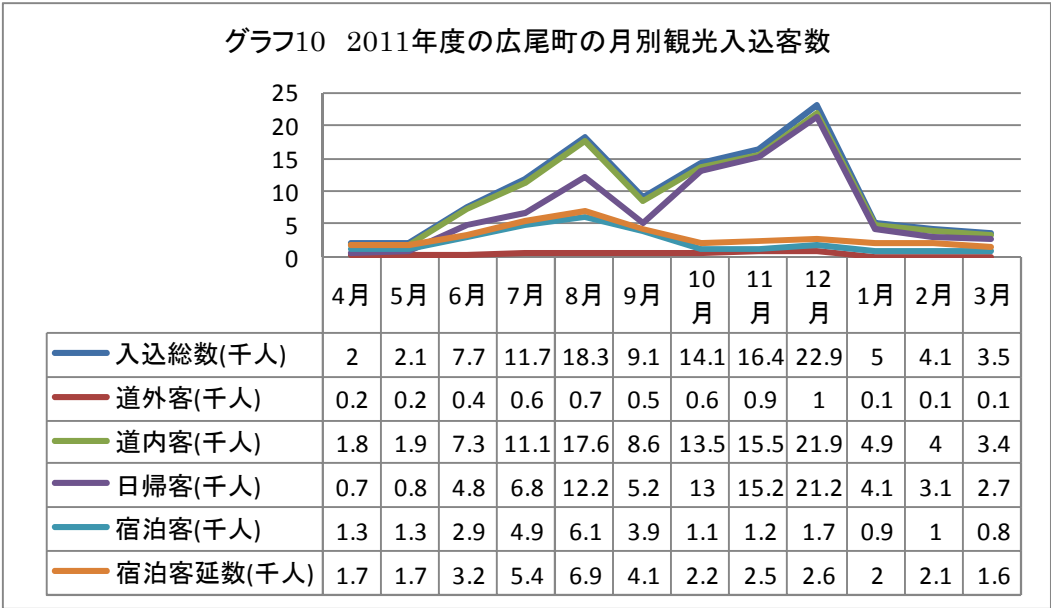
4.1 観光入込客数

上半期入込数と下半期入込数を比較すると宿泊客数と宿泊客延数以外は総じて下半期入込数の方が多いことがわかる。また、道外客よりも道内客の方がまだまだ多い。しかし、上半期と比べると僅かではあっても増えていることもうかがえる。



出典：十勝総合振興局より筆者作成

グラフ 10 からは、入込総数と道内客がほぼ同じような形状のグラフになっていることが読み取れる。また、入込総数も道内客も日帰り客も共通して 12 月が 1 番多いことがわかる。反対に道外客は 4 月から 3 月を通して、低い位置で止まっており、多い時で 1000 人である。これは道内客の最低人数にも及んでいないことから、まだまだ広尾町の知名度は北海道以外では低いことをあらわしている。



出典：観光入込客数調査 十勝管内集計表より筆者作成

4.2 イベント

4.2.1 広尾つつじまつり

毎年 5 月下旬から 6 月上旬にかけて、大丸山森林公園では約 1 万 2,000 本のエゾヤマツツジの開花の時期を迎える。広尾つつじまつりは、園内にたくさんの橙色のつつじの花が咲く中で開催されるイベントで、子供を対象にしたゲームなども沢山ある。また、年間を通じて漁獲量が少なく高級な食材とされるトキ鮭の千人鍋をはじめ、広尾の山海の幸が販売される。バーベキューなどに参加することも可能である。ここでは広尾町の味覚を存分に楽しむことができる。

画像 6 広尾つつじまつり



出典：広尾町公式 HP

4.2.2 広尾毛がにまつり

広尾の新鮮な海の幸、山の幸をたっぷり食べて楽しむ味覚イベント。特に人気なのは、会場に用意された大きな釜でゆで上げられた、ゆでたての毛ガニである。ほかにも、シシヤモ、ツブ、イカやタコなど広尾の味覚を楽しめるほか、広尾産の上質な新巻鮭やイクラ、筋子などの販売や、特産品が当たるお楽しみ抽選会なども行われ、毎年大勢の人出でにぎわう。

画像 7 毛がにまつりの様子



出典:広尾町公式 HP

4.3 観光名所

4.3.1 日光襟裳国定公園

広尾川からえりも町までの黄金道路(国道 336 号)周辺、広尾岳から清水町までの山岳部が日高山脈襟裳国定公園に指定されている。日高山脈は国内でも難度の高い登山のポイントとして、登山者に利用されている。日高山脈固有の植物が多く、花が咲く春や夏には登山者の目を楽しませてくれる。また、エゾシカやキタキツネなどの動物やマメやアメマスなどの川魚、クマガラなどの鳥類の生息地でもある。

画像 8 日光山脈襟裳国定公園



出典：広尾町公式 HP

4.3.2 フンベの滝

フンベの滝は国道 336 号(通称：黄金道路)の広尾橋からえりも方面へ車で 5 分程走ったフンベ地区の国道沿いにある。「フンベ」とは、昔このあたりに鯨が打ちつけられたことからアイヌ語で「鯨の獲れる浜」という意味で名づけられた。滝の流れは地下水が湧き出したものが、直接道路脇に落下している珍しい滝で、夏は涼を呼び、冬は氷柱となって自然の造形が私たちの目を楽しませてくれる。

画像 9 フンベの滝



出典：広尾町公式 HP

4.3.3 野塚のオオバナエンレイソウ

5 月中旬から 6 月上旬にかけ、広尾町野塚の保安林内に「オオバナエンレイソウ」が一面に咲く。オオバナエンレイソウはユリ科の多年草で、大きな 3 枚の白い花びらが特長で、花を咲かせるまで 10 年以上の歳月を費やす。ここは国内で最大規模の群生地として知られ、満開時には町内外

画像 10 オオバナエンレイソウ



出典：広尾町公式 HP

から多くの方々が訪れる。

4.3.4 天馬街道

約 27 年の歳月をかけて 1997 年 9 月、広尾町豊似から浦河町上杵臼までの国道 236 号通称「天馬街道」が開通した。一般公募で道産子（十勝）とサラブレッド（浦河町）が出会いとともに、天高く舞う姿を想像して「天馬街道」という名前がつけられた。何本かのトンネル、大橋でつながっている天馬街道には、日高山脈を貫く野塚トンネルがあり、延長 4,232m となっている。広尾町と日高地方を結ぶ山ルートとして、秋には紅葉が見頃となる。

画像 11 天馬街道



出典：広尾町公式 HP

《参照ホームページ一覧》

- ・ 広尾町公式 HP：<http://www.town.hiroo.hokkaido.jp/>
- ・ 広尾町：<http://www.ob.hkd.mlit.go.jp/hp/tokachi/information/hiroo.pdf>
- ・ 国勢調査：<http://www.pref.hokkaido.lg.jp>
- ・ ウィキペディア：<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%BA%83%E5%B0%BE%E7%94%BA>
- ・ 平成 23 年度 観光入込客数調査 総合振興局集計表：
<http://www.tokachi.pref.hokkaido.lg.jp/file.jsp?id=521108>
- ・ 平成 23 年度（上期） 観光入込客数調査 十勝管内集計表：
<http://www.tokachi.pref.hokkaido.lg.jp/file.jsp?id=466324>
- ・ 平成 23 年度（下期） 観光入込客数調査 総合振興局集計表：
<http://www.tokachi.pref.hokkaido.lg.jp/file.jsp?id=521108>